2013 年 9 月 6 日(金) 経済・マーケットニュースの専門チャンネル 日経 CNBC『アクロス・ザ・マーケット』の「投信 NAVI」で、当社の「朝日 Nvest グローバル バリュー株オープン(愛称:Avest-E(エーベスト・イー))」が取り上げられました。

当社の公募ファンド「朝日 Nvest グローバル バリュー株オープン(愛称:Avest-E(エーベスト・イー))」について、当社委託運用グループチーフが番組キャスターのご質問にお答えいたしました。以下、内容を抜粋・要約したものです。
(※回答内容については全て放映時点(2013 年 9 月 6 日現在)のものです。)

Q ファンドの基本的な投資方針は?

当ファンドは、日本を除く世界各国の株式に投資するファンドで、運用はバリュー投資に定評のあるアメリカのハリス・アソシエイツ社に委託しています。ボトムアップ運用で、企業価値に対して大幅に割安な 30～50 銘柄に絞って厳選投資をします。原則として、為替ヘッジは行なわないため、為替市場の変動の影響を受けます。

Q 割安銘柄に厳選投資との方針ですが、具体的な銘柄の選定方法は?

株価が安いだけでなく、本来の企業価値が右上がりに成長する銘柄を見極めて投資することが重要です。リサーチは徹底したボトムアップ・アプローチで、フリー・キャッシュフローを生み出す能力、競争力、経営者の質の高さ、などから本来の企業価値を独自に評価します。その企業価値を 100 とした場合に、70 以下の株価で取引されている銘柄を割安銘柄として買い付けます。また、過度の分散でベスト・アイデアを薄めないように銘柄数は 30～50 程度に絞込みます。ハリス・アソシエイツ社の調査は、セクター・アナリストを設けず、アナリストはゼネラリストとして、セクターにとらわれず市場全体から割安銘柄を発掘します。

Q ファンドの国別構成は?

個別の銘柄選択の結果として、国別比率や業種比率が決まるもので、決してトップダウン的に決めることはありません。例えば現在スイスの比率がかなり大きいのは、投資対象として魅力度の高い銘柄が、たまたまスイスに多いからです。

Q 現在は新興国がゼロ%ですが?

新興国銘柄も 30%まで組入れ可能ですが、現在は十分に割安な銘柄がないので非保有としています。中長期的な新興国の成長を享受するのであれば、現時点においては新興国市場の銘柄よりも、新興国でビジネス展開をする先進国の企業の割安銘柄への投資の方が魅力的だと思います。

Q QE3の縮小などを巡る不安定な相場の動きをどう捉えている?

短期的には、米国の金利動向にグローバル市場全体が影響を受けやすい展開になると思いますが、市場のボラティリティの高まりは、質の高い銘柄を安く買うチャンスでもあります。当ファンドでは、欧州の債務問題の懸念時にも、ファンダメンタルズが強固にもかかわらず売込まれた欧州の銘柄を買入れ、欧州株の比率を高位に保ってきました。個別銘柄の企業価値を見る上で、環境としてマクロ経済以上に重要なのは個別銘柄のダイナミズムです。マクロ経済にフォーカスしすぎると、大きなチャンスを逃してしまうかもしれません。

Q ある評価機関では、収益率が高いのに関わらず総合評価が低い様ですが、なぜ?

ここ 3 年ほど当ファンドのボラティリティが高かったことがマイナスポイントなのかと思いますが、厳選投資でアクティブに運用した成果はリターンに表れています。私たちにとってリスクとは、ボラティリティではなく、損をすることです。それを抑えるために私たちがしていることが「質の高い銘柄に、著しく割安な価格で投資する」ということなのです。

ファンドのご案内(リスク・手数料等)

愛称: Avest-E エーベスト・イー

追加型投信/海外/株式
朝日Nvest グローバル バリュー株オープン

1309080